

学力向上アクションプラン(姫島村)

目標及び指標

【目標】

ア. 児童生徒の学力向上に係る目標

- 1) 全国学力・学習状況調査において、すべての教科のA「知識」が全国平均を超える。
- 2) 県学力定着状況調査で、下位層の児童生徒を7%以下にする。

イ. 学力向上に関して抱える課題を解決するための目標

- 1) 「家庭学習のすすめ」を活用し、家庭学習習慣の定着を図る。
- 2) 学校と家庭が連携し、学習や読書に集中できる環境をつくる。

達成指標

取組指標

○ 全国調査で、すべての教科のA「知識」が全国平均を超える学校数 小(1/1) 中(1/1)	○ 小学校は、朝のかけこタイムや課後のチャレンジタイムを使って国語・算数の補充学習を毎週4回年間を通じて実施し、下位層の減少を図る。
○ 下位層(1段階)の児童生徒(県調査) 小・中とも7%	○ 中学校は、課後のやはずタイムを使った国語・数学・英語のA問題対策を毎週3回年間を通じて実施し、下位層の減少を図る。
○ 家庭学習習慣の確立ができた児童・生徒が75%以上の学校数 小(1/1) 中(1/1)	○ 「かっこががんばりカード」(姫島小)や「学習計画ノート」(姫島中)により、学級担任が毎日児童生徒の家庭学習を把握し、助言や励ましを行う。 小(1/1) 中(1/1)

行動計画

①「中学校学力向上対策3つの提言」の実施に関して

- 1) 学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底
 - ・ 生徒指導の三機能を意識した問題解決的な展開の授業を充実させるとともに、習熟度別指導を積極的に導入する。
 - 生徒指導の三機能を意識した授業実践
 - ア 「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育む」を意識した授業づくりを実践する。
 - イ 県教育センターの出前研修を活用し「考えをまとめ、伝える力」を育てる授業づくりを実践する。
 - 習熟度別少人数指導教員(英語)・学力向上支援教員(数学)の活用
 - ア 年3回以上の授業公開を実施し、研修等で身につけた優れたノウハウを普及させる。
 - イ 生徒一人一人の力に見合った学習プリントや教材、授業とリンクした個に応じた家庭学習課題など、きめ細かな授業や指導の実践。
 - 意欲的に取り組ませるためのコース選択の工夫(学期ごとに1回ずつ実施)
 - 習熟の程度による少人数授業により、つまづきを早期に発見し、個別指導を実施
 - 学力調査B問題に対応する力を育成するための言語活動の充実に重点を置いた授業の推進
 - ・ 教科の壁を越え、すべての教科に共通した授業改善の取組内容を設定し、その視点に基づく互見授業・授業研究を実施する。
 - 年2回以上の互見授業週間で教職員の授業から学び、よい点を自分の授業に活かす自己研鑽
 - 新大分スタンダードに基づいた授業観察シートを活用した授業力向上
- 2) 学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築
 - ・ 小規模校は、校内研修の枠で、近隣の学校と合同教科部会をもち、指導案や評価問題、教材の作成等を行う。
 - 国東地区教科部会の組織をあげた取組やネットワークを活用した授業改善
 - 地区教科部会ごとの年1回以上の授業研究会の実施と事後研究会の充実による授業改善の推進
 - 各種学力調査の結果分析をもとに、地区教科部会ごとにその専門性を活かしたフォローアップシートの作成(全国学力学習状況調査・県学力定着状況調査・村総合学力調査)
 - フォローアップシートの作成を通じた児童生徒の学力の課題把握により、授業のあり方を振り返り、授業改善に役立てる取組の推進
 - 小中連携の取組の一貫で、小学校の算数・外国語科授業への参加(T1・T2)による基礎基本の徹底
- 3) 「生徒とともに創る授業」の推進
 - ・ 生徒による授業評価を実施し、それを授業改善に反映する。
 - 生徒アンケートによる「課題」「板書」「まとめ」の評価を70%以上にする(わかりやすかった・比較的わかりやすかった)
 - 生徒アンケートによる「友だちの考えを聞くことによって自分の考えが深まった」の評価が90%以上にする(わかりやすかった・比較的わかりやすかった)

②小学校の授業改善の取組について

- 1) 「姫小スタンダード(算数科)」のいっそうの活用と推進
 - ・ 教職員・保護者・児童アンケートによる評価を活かして授業改善を行う。
 - ・ 授業観察・互見授業で観察シートを活用した評価を活かして授業改善を行う。
- 2) 「姫小スタンダード」を校内研修と連動させた組織的取組
 - ・ 毎時間授業の終わり10分間を使って、ねらいが達成できたかの「ふりかえり」の時間を設定し、その都度個別指導を行い学力の定着を図る。
- 3) 算数の授業における板書画像の積極的活用による板書の改善
- 4) 「ふりかえり」による個別指導と学力の定着
- 5) 朝学習にドリルを活用した算数科基礎学力の向上
 - ・ 月～水の週3回朝の15分間のかっこタイム(朝自習)を設定し、一人一人のつまづきに応じた基礎学力の向上を図る。
- 6) 読書活動の積極的活用
 - ・ 毎日、学校で10分間、家庭で20分間の読書を行う。
- 7) 学習規律・家庭学習など、継続的取組の推進
 - ・ 家庭学習の支援に取り組む。「かっこががんばりカード」
- 8) 特別の教育課程編成への地域・外部人材の積極的活用の継続

③家庭・地域と連携した学力向上の取組について

- 1) 放課後や土曜日の教育環境の充実
 - ・ 放課後を活用した学力向上の取組
 - かっこ塾(小4～小6、水曜日実施)
 - 水曜日塾(中2、水曜日実施)
 - 数学塾(中1～中3を対象に各学年1回実施)
 - ・ 土曜日を活用した学力向上の取組
 - 毎月1回の土曜授業の実施(小1～小6、中1～中3、土曜日実施)
 - 土曜日塾(中3、土曜日実施)
- 2) 学校・家庭・地域が連携して「学力向上」の協働達成をめざす
 - ・ 毎日、家庭学習時間確認の声かけを保護者がする
 - 「家庭学習のすすめ」を活用し、家庭学習の定着を図る。
 - ・ 家庭学習や読書に集中できる環境をつくる
 - ・ 毎月1回授業公開をする